

NUAL

名古屋大学全学同窓会
NAGOYA UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION

Newsletter

No.9 平成 20(2008)年 2月

NUAL (ニューアル) は Nagoya University Alumni Association の略称です。



Contents

豊田講堂 Toyoda Auditorium, Nagoya University	1
同窓会ニュース NUAL News	5

大学ニュース Nagoya University News	17
事務局からのお知らせ From the NUAL Office	20

(左上) 1970年(昭和45)3月卒業式 (右上) 竣工した豊田講堂
(左下) 2005年(平成17)6月名大祭前夜祭 (右下) 昭和30年代半ばの豊田講堂

特集 豊田講堂 Toyoda Auditorium, Nagoya University

1960年(昭和35年)に建設された豊田講堂が大規模改修され、2008年2月竣工を迎えます。今号では3名の卒業生の方々に、豊田講堂での最初の卒業式、最初の入学式、そして講堂のステージで演じた体験を振り返って「豊講への想い」を語っていただきました。

The Toyoda Auditorium was founded in 1959, and the auditorium has been reconstructed with a big structure improvement in a last couple years. The completion will be in February, 2008. In this month, the three graduate students from our university presented their special thought of the Toyoda Auditorium called "Toyoko", such as their first graduation and entrance ceremony at the auditorium, and their experience of performance on the stage of auditorium.

豊田講堂ができたころ

梅田 卓夫（1961年教育学部卒）

このたび豊田講堂が改修され装いを新たにすると聞いた。もう遙か遠いむかしになるが、新築のこの講堂で最初の卒業式を迎えることができたのが、私たちの学年だった。当時の学生の一人として、いろいろなことが思い出されてくる。

そのころ名古屋大学はみずからのことを自嘲気味に“たこ足大学”といていた。校舎が少なくとも6か所に散らばっていたのだ。教養部は滝子、文学部・教育学部・法学部は名古屋城堀の内、経済学部は桜山、農学部は安城、理学部・工学部は東山、医学部は鶴舞、という具合である。私の場合教育学部へ入ったのだが、入学式は医学部講堂で、教養部の2年間は滝子へ、学部は名城堀の内へ通い、卒業式は晴れて東山豊田講堂で、という具合にさまよったのだった。

滝子の校舎は旧制八高のものだった。名城の校舎は旧陸軍歩兵第六聯隊の兵舎を流用したものだった。ともに明治年間に建てられた木造である。滝子の教室など、床板に隙間ができていて、ある学生がうっかり試験の答案を落としたところ床下に消えてしまったというエピソードが語り継がれていた。それでも私たちには、立派な教室だった。（現在、八高の正門と六聯隊の兵舎の一部は、犬山市の明治村に移築保存されている。）

そんななかで学生生活を送っていた私たちの前にあの豊田講堂が現れたのだ。それは小高い丘に建つ、目をみはるような清らかな建造物だった！

装飾を廃して、構造体のコンクリートをむき出しにした外観の荒々しさと力強さ。前面オープンスペースとピロティ、そして



新制名古屋大学豊田講堂（昭和30年代半ば）

梅田 卓夫さん

1961年3月、教育学部教育学科卒業。愛知県立の高校教諭を経て、現在、愛知淑徳大学文化創造学部教授。



医学部講堂とは比較にならない内部空間の広さ。人文系の学生だった私は、横文彦という設計者のことを知らなかったが、これが過去の建築とは異なる思想に基づいていることを直観的に感じ取っていた。ちょうどそのころ、岩波書店からル・コルビジェ『伽藍が白かったとき』という本が出ていて、事情通の友人が「この建築法はル・コルビジェが提唱した新しいものだ」といった。私は、この本を、題名に惹かれて手にし、芸術・思想の書として読んでいたが、そこには「汽車がトンネルをくぐる時、人は心の底から湧きあがってくるように思われる勇ましい音楽にうたれることがある」「トンネルの壁を形づくる、機械的に正確なリズムをもつ鉄材架構は、そこに音楽が存在するのを気づかせないわけにはいかない」「アームストロングはこうした音をよく認識し、これを音楽にうつしいれた」「アメリカの黒人たちは機械の歌、リズム・轟音をジャズに吹きこんだのである」というような言葉があり、ディキシーランドジャズが好きだった私は、なるほどそうなのか、と思ひピロティの天井を見上げていた。現在では、豊田講堂は日本におけるモダニズム建築の代表的なものとされているようだ。

私たちの学年が過ぎたのは、3年に伊勢湾台風、4年に「60年安保」、教養部時代には「勤評闘争」「警職法反対闘争」など、政治社会的に激動の4年間だった。大学全体が活気に満ち、第1回「名大祭」が実現し、“たこ足大学”もようやく統一の機運に包まれてきていた。その象徴となったのが「豊田講堂」だった。

名大史ブックレット No.9より

豊田講堂の竣工日は1960年5月9日とされ、同日には完成式典が開催されました。なお、この式典に先立ち、躯体工事完了後には1959年度卒業式と1960年度入学式が行われています。

豊田講堂と名大男声合唱団

豊田講堂の存在感

酒徳 正司（1964年工学部卒）

私は1960年（昭和35年）に入学しました。厳しい受験時代を乗り越え、憧れの名古屋大学の入学式。

まず、驚いたのは入学式会場の豊田講堂でした。小学校、中学校、高校では見られなかった壮大な鉄骨コンクリート造り、講堂らしくない奇抜な外観に目を見張りました。

それは、当時進められていた東山キャンパス集約の象徴のように、バス道路東の丘の上に堂々と聳え立っていました。さすがに、大学は高校とは違い凄いところだなと、講堂の建物からも感じました。

しかし、その周辺環境は工事中未整備状態で、バス停から講堂へ登る道は、舗装も無く、雨の日には泥んこ状態でしたし、風の日には、砂塵が舞い上がるような有様でした。

現在の緑したたる、公園のような美しい状態とは正に雲泥の差でした。

入学式では名大交響楽団と名大男声合唱団の祝典生演奏があり、その素晴らしい響きは大学生活への期待に一層胸をときめかせたものでした。



1961.5.25 第2回名大祭 名大男声合唱団

酒徳 正司さん

1940年生まれ。1964年名大工学部電子工学科卒。1964年大同製鋼入社、同社常務取締役などを経て、2004年同社退職。現在名古屋男声合唱団（総務）などで活躍。



記憶は定かではありませんが、演奏曲目は交響楽団がベートーベンの「エグモント序曲」、男声は「巴里の若者の唄」だったと思います。

私は、この時の名大男声の重厚で迫力あるハーモニーにいたく感激し、入団に至りました。

奇しくも、1960年は第一回の「名大祭」が開催された年でした。5月下旬、豊田講堂の壁面に名大祭テーマ「日本人民のエネルギーの継承と発展の方向を求めて」が大きな垂れ幕に大書されていました。大学では、かくも格調の高いテーマを掲げて行動するものなのかと驚きと感動を覚えました。

1960年はあの安保反対闘争で騒然とした社会情勢の中、学生の関心も高く、学生運動も盛んでした。このテーマもそんな時代背景を反映したものだったのでしょうか。

このように豊田講堂はいつも大学イベントの中心的存在であり続けてきましたし、今後も名古屋大学生及び同窓生の心の拠り所として、名古屋大学の象徴であり続けることでしょう。



1962.5 名大祭 名大男声合唱団ほか、名大交響楽団（オーケストラ）

ステージで演じた“劇場”としての思い出

長谷川洋昭（1966年農学部卒）

その当時、東山キャンパスはたこ足大学を東山に統合する建築ラッシュのさなかであった。西部劇に出てくる開拓の町のように、泥濘と砂塵の中に直線的な外観の建物群が完成しつつあった。昭和37年、わたし達の入学式はキャンパスの丘に立つ、さながら泥田に咲く蓮のごとく斬新な豊田講堂でおこなわれた。

入学式では名大交響楽団と名大男声合唱団のナマ演奏があった。講堂内の大空間で大きく、力強く響く音色、歌声。私は感動して音譜も読めないのに名大男声にすぐ入団した。そして、その年からは卒業式や入学式そして名大祭などの諸行事で講堂のステージに立つ役回りとなった。

豊田講堂の“華”はなんといっても名大祭だ。講堂自体は祭りのメイン会場としてセレモニーやさまざまな演しものが、さらに周辺広場は模擬店や野外パフォーマンスが朝から夜まで行われたものだった。

ある年、名大男声は合唱のほか、民俗芸能の演しものもやることとなり、その一つ「田植え踊り」のメンバーに私はなった。はるばる静岡まで踊りを習いに出かけた。もとより、舞踊

長谷川洋昭さん

1943年生まれ。1966年名大農学部林学科卒。1966年岐阜県庁入庁、岐阜県林業短大校長などを経て、現在(株)中部森林技術コンサルタント、名古屋男声合唱団などで活躍



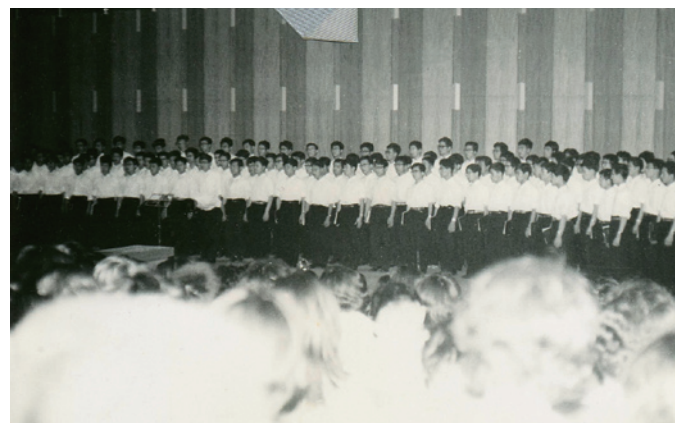
の経験は盆踊りぐらいしかなく、演劇も小学校の学芸会ぐらいのもの。ごつい顔と体格の私が男役に、きゃしゃなT君が女役になった。踊りは2拍子のドジョウ掬いプラスおかめとひょっとこのように、ひょうきんでちょっとエッチなものだった。恥ずかしいという気持を捨て去り、役になりきるということは素人には難しく、その後、学生寮の嚶鳴寮で演出担当の男に厳しく稽古させられた。この担当は伶俐な顔をしていて、情け容赦ない。どこかの劇団のプロかと思っていたが、後日同学年とわかり、さらに奇しくも同じ職場に就職して生涯の友となっている。

さて、本番に。猛練習の甲斐あって度胸は満点、農夫の衣装を身にまとい、顔も胸も、足さへどうらん塗りたくり、まぶしいライトのステージでコミカルに踊りまくった。見に来てくれた友人やガールフレンドたちには、私がいつ、どれに出たかもわからずじまいだったようだ。

あれから40年、豊田講堂での演しものと青春を思いおこして合唱を再開し、名大男声のOB合唱団と地域の合唱団でシニアパワーを発揮している。



1962.5 名大男声合唱団 豊田講堂裏での練習風景



1962.5 名大祭 名大男声合唱団

海外支部の設立 NUAL Overseas Branches Founded

2005年度に設立された韓国支部、バングラデシュ支部、上海支部、タイ国支部に続いて、今年度は2つの海外支部が誕生しました。北京支部は2007年5月に、ベトナム支部は9月にそれぞれ設立総会が開催されました。

General meeting for founding NUAL Peking Branch was held on 21th May 2007. Founding ceremony of NUAL Vietnam Branch was held on 7th September 2007.

北京名古屋大学同窓会（全学同窓会北京支部）創設

去る平成19年5月21日（月）に北京の燕山大酒店で、名古屋大学全学同窓会の北京支部である北京名古屋大学同窓会の設立総会と懇親会が行われました。大学側からは平野総長はじめ5名の方に出席いただき、全学同窓会からは、連携委員会委員長の中野先生と私が参加致しました。

平成19年2月6日に、中野先生と私が、北京で事前打ち合わせを行っていたこともあり、当日の設立総会は、非常にスムーズに進みました。北京名古屋大学同窓会の設立に向け整備した名簿では、北京周辺の留学経験者など90名近くの同窓生がおられ、当日の参加者は50名を超えました。北京支部の役員は以下の方々です。

北京同窓会役員名簿

会 長	潘 ウェイ	清華大学 教授
事務局長	馬 智 亮	清華大学 教授
顧 問	応 松 年	北京行政学院 教授、全国人民代表大会委員
〃	赫 冀 成	東北大学 学長
幹 事	13名	

設立総会では、馬先生の司会で、まず、潘会長の挨拶があり、役員紹介の後で支部旗と支部認定証の授与がありました。その後、平野総長が挨拶されました。潘会長からは、今回の北京支部設立を大変喜んでおり、今後、名古屋大学や全学同窓会の情報を是非とも流してもらいたいとの要望がありました。平野総長からは、まず、名古屋大学の現状に関する説明があり、今後も国際交流と留学生教育に全力で当たりたいとの挨拶がありました。また、大学と北京支部との良い関係を継続したいとの希望が述べられました。

設立総会後の懇親会は非常になごやかに行われ、支部旗の前で記念写真を撮る人が沢山いました。懇親会の中で、代表幹事の私から、まず、豊田会長の祝辞を伝え、全学同窓会の設立の経緯や理念の他、これまでの他の海外支部の設立状況などの説明をしました。その後、平成17年11月に設立された上海支部の唐支部長からの祝辞が中国語で披露されました。法学研究科の宇田川先生が、即座に翻訳され、美文の日本語挨拶文としても披露されました。多くの方々から留学時の思い出話などが出て、懇親会は2時間半程度続きました。会の最後に、ホテルのロビーで全員の記念写真を撮りましたが、その後も立ち話が続き、皆さん名残惜しかったようでした。



支部旗の授与



総長と北京同窓会役員など

（全学同窓会代表幹事 伊藤義人）

名古屋大学全学同窓会ベトナム支部創設

去る平成19年9月7日（金）にベトナムの首都ハノイの Daewoo ホテルで、名古屋大学全学同窓会ベトナム支部の設立総会が行われました。これは、ハノイ法科大学に名古屋大学日本法教育研究センター開所式に合わせて行ったものです。

設立総会には、多くのベトナム人の名古屋大学卒業生・修了生だけでなく、日本人の現地駐在員の方々にもご参加いただきました。大学側からは平野総長、佐分理事、松浦法学研究科長はじめセンター開所式関係者にご出席いただき、全学同窓会からは、連携委員会委員長の中野先生と私が参加致しました。

設立に向け整備した名簿では、ベトナム人の留学経験者など60名近くの同窓生がおられ、当日の参加者は、在ベトナムの日本人同窓生を含め70名弱となりました。ベトナム支部の支部長は残念ながら決定していませんが、複数の幹事（理事）は決定しています。

設立総会は、日本語とベトナム語の通訳を使って、中野連携委員会委員長の司会で行われました。まず、平野総長の挨拶がありました。日本法教育研究センターの開所式に合わせて、ベトナム支部が、他の5つの海外支部に引き続いて設立されたことに対する謝意と、今後の名古屋大学の国際交流の促進について決意が示されました。その後、代表幹事の私から、豊田会長の祝辞を伝え、全学同窓会の設立の経緯や理念を説明し、電子名簿の住所変更をインターネット経由で行ってほしい旨をお願いしました。

その後、平野総長から、同窓会のベトナム支部旗と支部認定書を、ベトナム支部の幹事であるレ・タイン・ロン（Le Thanh Long）さんに渡されました。そして、ロンさんのお礼の挨拶がありました。ロンさんからは、今回のベトナム支部設立を同窓生は大変喜んでおり、今後、名古屋大学全学同窓会の理念に従って、大学や全学同窓会の情報を共有し、名古屋大学の情報発信や国際交流に貢献したいという話がありました。

設立総会終了後に、総長を中心として卒業生・修了生が、支部旗を入れて記念撮影をしました。参加者の皆さんに大変喜んでいただいた設立総会になりました。

設立総会の後で、日本法教育研究センターの祝賀会に合流して、楽しい交流のひとつをすごしました。

（全学同窓会代表幹事 伊藤義人）



支部旗の授与



記念写真

支部・部局便り News from the Alumni Associations of Different Schools and Regions

部局や地域ごとの同窓会から寄せていただいた便りを掲載します。伝統ある同窓会も、新たに設立される同窓会もありますが、それぞれが全学同窓会と連携しながら活動しています。

Here you can find announcements and news from alumni associations of schools and/or regions. These associations and NUAL are cooperating with each other to everyone's benefit.

関東支部 NUAL Kanto Branch



関東支部は、学生会館（神田・神保町）にある、名古屋大学東京連絡所にあります。東京連絡所は、名大の東京の唯一の拠点です。

ここを拠点にして、関東支部の幹事や、ワーキンググループと大学教職員と話し合っ、名大への対応活動を推進すべく努めております。2007年実施したものは、

- ①名古屋大学のミッションとビジョンへの提言を実施。
- ②学生会への協力実施（團藤ブログ）（名大でのジョブセッション、セミナーへの協力と会員勧誘）
- ③宇宙137億年の旅（国立科学博物館9.8-9.17）への参加協力実施。小中高生から幅広い参加者を得た。
- ④第5回東京フォーラム（アジア法整備支援・日本法令外国語翻訳プロジェクトおよび名大のアジアへの貢献の紹介）への参加勧誘実施。留学生や現役学生とアジア各国の大臣や大使を含めた交流は、大盛会で、今後の我が国とアジアとの連携強化に繋がるものとなった。
- ⑤イノベーションジャパンなど東京での名大の参加したイベントへの、関東会員への勧誘参加による産学連携推進。2008年は当面注力するものとして下記の実現です。

- ①先端融合領域イノベーション創出拠点形成（スーパーCOE）分析・診断 医工学による予防早期医療の創成シンポジウムへの勧誘

- ②名大基金の募金活動

今回のニューズレターは、新卒業生の方が多く読まれると思います。東京に来られましたら、是非、学生会館をご活用ください。

■連絡先 E-mail : kataoka@tokyo-office.sat.nagoya-u.ac.jp
事務局長 片岡大造まで

関西支部 NUAL Kansai Branch



支部幹事会（平成19年11月）
左より、鳥居（土木 S54修）、
青山（機械 S32）、清水（機
械 S31）、黒田（法 S28）、伴
（応化 S43）、寛（応化 S33）、
池田（経済 S26）、入谷（経済
S43）、坂上（電気 S35）、安井
（農 S54修）

関西支部は、平成16年11月17日に名古屋大学関西フォーラムの開催に併せて発足し、4年目を迎えました。寛哲男支部長（工・応化33卒）を中心に、関西に同窓会組織を持っている学部・学科の同窓会から幹事がでて運営しています。関西地区の卒業生は4,000人を越えますが、その半数が工学部出身者です。

支部活動は、支部総会の開催が唯一の活動ですが、平成18年3月に第2回の支部総会を開催しました。第3回支部総会は平成20年1月26日に大阪弥生会館で開きます。また、この準備のために平成19年3月と11月に幹事会を開きました。総会では、総長、同窓会代表幹事の先生方の列席の下、講演会、懇親会を行っています。

支部同窓会は、学部、学科、世代が異なる卒業生をつなぐ横糸の働きをするものと考えています。関西地区に在住・在勤の卒業生の参加をお待ちしています。

■連絡先 E-mail : torii_t@mpd.biglobe.ne.jp（鳥居）

名古屋大学遠州会 NUAL Ensyu Branch

名古屋大学遠州会は静岡県西部の全学同窓会として平成8年に発足し、今年で12年目となります。対象の名大卒業生のうち約500人が会員登録し、毎年懇親会には約80人が出席しております。平成19年度は5月26日（土）にオークラクトシティーホテル浜松にて懇親会を開催しました。

今回は来賓として平野総長と伊藤全学同窓会代表幹事にご出席頂きました。

平野総長からは最新の名古屋大学の様子や、大学のおかれている経済事情についてのお話がありました。大学の更なる発展のためには卒業生との相互協力が必須のことであり、国内はもとより沢山の卒業生を輩出している東南アジアを中心に海外での同窓会支部を設立し連携を深めて行く計画を伺いました。

今回はより多くの若い層や女性会員の出席を呼びかけま

した結果、沢山の女性会員が出席され、平野総長にも各テーブルを廻って親しく歓談して頂き盛り上がりました。

浜松市が政令指定都市となり、また市町村合併等で住所表示も変わりましたので、名簿の改訂版も発行いたしました。

平成20年度は6月7日（土）の夕方より「グランドホテル浜松」にて総会と懇親会を開催する予定です。4月下旬までには詳しいご案内ができると思います。

年一回の全学同窓会に繋がる、世代と学部を超えた遠州地域の身近な交流の場であります。静岡県西部に在住または在勤の名大卒業生の参加をお待ちしております。

■連絡先

TEL/FAX : 053-425-0991

E-mail : nualenshu@shizuoka.email.ne.jp

事務局 内山まで

教育学部 Education



教育学部・大学院同窓会では、今年度10月13日（土）に定例の総会を開催いたしました。午前中は、本研究科教授である速水敏彦先生に「仮想的有能感を越えて一人間力を育む」と題した講演をお願いしました。昨年来話題沸騰のご著書「他人を見下す若者たち」（講談社現代新書）にもとづく興味深いお話に刺激を受け、たいへん充実した時間をもつことができましたと思います。

年次総会の後、午後は「教育発達科学研究科・21世紀人間発達学術研究基金第4回授賞式」が行われました。この基金は教育学部50周年を期に発足し、2年に一度、卒業生・修了生の中からさまざまな社会貢献をしている方々を推薦し、基金委員会で選考の上、さらなる活動を展開するための助成金を授与するというものです。今回は、作家として文芸作品のみならず、子育て体験の自伝である「発達障害だって大丈夫—自閉症の子を育てる幸せ」（河出書房新社）を出版された堀田あけみ氏と、犯罪被害者遺族への支援活動を院生時代より継続している西脇貴恵子氏ほか3名の皆さん（参考：「いのちかなでる—犯罪被害者自助グループ緒あしす手記集」立花書房）が表彰されました。

総会、講演、授賞式の様子は、年明けに発行予定の「通信」（教育学部同窓会）誌にて紹介いたします。ホームページにもアップしていく予定ですので、ご覧ください。

法学部 Law



名法会が開催される

10月20日（土）11:00～13:00、CALE フォーラムにて昭和30年卒（第5回）の同窓生を中心とした同期会（名法会）が開催され、約20名の皆様が参加されました。この会は毎年この時期に行われているものです。

今回は鶴見恒夫氏の開会の挨拶にて始まり、岩本行正氏の音頭にて乾杯を行った後、全員が近況や当時の思い出を語られ、和気あいあいの中で会は進行しました。

後半は記念撮影、近藤和義氏の挨拶の後、最後に浜田教授から法科大学院を中心として大学の近況についての説明があり、参加者の皆様は興味深く聞いておられました。

予定された2時間はあっという間に過ぎて、加藤博市氏の閉会の辞で会を終了しました。

会場では神保教授作成の「法学部の50年」と題した映像資料の上映も行われ好評でした。

医学系研究科 学友会 Medicine

医学部医学科の同窓会である学友会の平成19年度の大会が、吉田純教授を大会委員長として10月20日（土）に名古屋観光ホテルでおこなわれた。例年通り総会、記念講演、懇親会というプログラムで、多数の同窓生が出席し盛会であった。

総会では吉田純大会委員長と濱口道成医学研究科長のごあいさつに続き、法医・生命倫理学の石井晃教授、腫瘍外科学の榎野正人教授、呼吸器内科学の長谷川好規教授、医療薬学（薬剤部）の山田清文教授の4名の新任教授と、本年3月末で退官した老年科学の井口昭久教授、分子標的治療学の菊池韶彦教授、呼吸器内科学の下方薫教授、公衆衛生学の豊嶋英明教授、医療薬学（薬剤部）の鍋島俊隆教授、腫瘍外科学の二村雄次教授、生体反応病理学の森尚義教授、医療管理情報学の山内一信教授が紹介された。記念講演では、医学部6年生の奥新和也君、医学部名誉教授の永津俊治先生、医学部名誉教授で名古屋セントラル病院の院長でもある齋藤英彦先生が「日本再発見（日本の医療これから）」というテーマで、それぞれ学生、基礎医学者、臨床医からの視点で現在の日本の医学医療が抱える問題を分析し、示唆に富む提言を頂いた。

次年度は名古屋第一赤十字病院院長の小林陽一郎先生が大会委員長となり実施される。

農学部同窓会(セコイア会) Agriculture (Sequoia-kai)



平成19年6月9日(土)名古屋大学農学部大会議室に於いて、農学部第3回卒業生および大学院農学研究科第1回修士卒業生の卒業50周年記念祝賀会を、農学部談話会と共同で開催しました。平成17年に名古屋大学農学部第1期生の卒業50周年を記念して始まったこの祝賀会は、今回新たに大学院の第1期修了生も加え、14名の卒業生と約20名の談話会会員、約15名の現職員ならびに同窓会役員が出席して盛大に行われました。祝賀会では、瓜谷郁三名誉教授より安城市の旧農学部跡地への記念碑建設の報告に続き、第3回卒業生の柴田猛氏による講演「海苔について」も行われ、互いの旧交を温めておられました。来年も引き続き第4回卒業生ならびに大学院第2回修了生の卒業50周年をお祝いする予定です。

同日、農学部第3講義室に於いて総会を行い、平成18年度の事業・決算報告を行った後、平成19年度役員を選出し、平成19年度事業計画・予算を審議しました。総会終了後、加藤保氏(愛知県農業総合試験場)による講演「明日の愛知県農業を拓く、農業総合試験場の実用化研究」を開催しました。講演終了後、シンポジウム内“ユニバーサルクラブ”にて懇親会を開催し親睦を深めました。祝賀会、講演会、懇親会に関する情報は農学部同窓会ホームページ(<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/>)に掲載中です。是非ご覧下さい。

■連絡先 E-mail: dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp

工学部・工学研究科 Engineering

工学部・工学研究科同窓会(以下、本同窓会)は、名前の通り、工学部の卒業生、工学研究科の修了生を会員とする同窓会です。実際には、各学科、専攻ごとに組織された同窓会の連合体として組織されております。したがって、学科・専攻の同窓会の会員である皆さんは、同時に本同窓会の会員でもあります。以下に、各学科・専攻同窓会の一覧を示します。

同窓会名称	学科・専攻
応化会	物質制御工学専攻(一部)、結晶材料工学専攻(一部)、化学・生物工学専攻(応用化学分野) 化学・生物工学科(応用化学コース)
健友会	化学工学専攻、分子化学工学専攻、物質制御工学専攻(一部)、エネルギー理工学専攻(一部)、化学・生物工学専攻(分子化学工学分野) 化学工学科、分子化学工学科、化学・生物工学科(分子化学工学コース)
生物機能同窓会	化学・生物工学専攻(生物機能工学分野) 化学・生物工学科(生物機能工学コース)
共晶会	金属工学専攻、鉄鋼工学専攻、材料機能工学専攻、材料プロセス工学専攻、マテリアル理工学専攻(材料工学分野) 金属学科、鉄鋼工学科、材料機能工学科、材料プロセス工学科、物理工学科(材料工学コース)
応物同窓会	マテリアル理工学専攻(応用物理学分野) 物理工学科(応用物理学コース)
名原会	原子核工学専攻、マテリアル理工学専攻(量子エネルギー工学分野) 原子核工学科、物理工学科(量子エネルギー工学コース)
二葉会	電気系専攻(電気工学、電気工学第2及び電子工学専攻、電気工学専攻、電子工学専攻、電子情報学専攻)、電子情報システム専攻 電気系学科(電気学科、電気工学第2学科、電子工学科、電子情報学科)、電気電子・情報工学科(電気電子工学コース)
名報会	情報工学専攻、計算理工学専攻(一部) 情報工学科、電気電子・情報工学科(情報工学コース)
東山会	機械理工学専攻(機械科学分野・機械情報システム工学分野) 機械・航空工学科(機械システム工学コース)
伊吹会	機械理工学専攻(電子機械工学分野) 機械・航空工学科(電子機械工学コース)
高翔会	航空宇宙工学専攻 機械・航空工学科(航空宇宙工学コース)
鏡ヶ池会	土木工学専攻、地圏環境工学専攻、社会基盤工学専攻、環境学研究科都市環境学専攻(空間環境学コース) 土木工学科、社会環境工学科(社会資本工学コース)
八いつ会	建築学専攻、地圏環境学専攻、環境学研究科都市環境学専攻建築学系 建築学科、社会環境工学科(建築学コース)
結材同窓会	結晶材料工学専攻

本同窓会は、上記14におよぶ学科・専攻同窓会の会員である皆さんや、学科・専攻同窓会をお世話されている役員の方のご協力で成り立っています。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

工学部・工学研究科の卒業生、修了生の皆さんで、同窓会に関するお知らせなどが届いていない場合は、上記の各学科・専攻同窓会にお問い合わせ下さい。

工学部・工学研究科同窓会:

<http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/engg/>

各学科・専攻同窓会の連絡先:

<http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/engg/als.html>

活躍する会員たち NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員の各界におけるご活躍ぶりを紹介しています。第6回は、京都国立博物館学芸課長としてご活躍の森田稔さんと、シニア向けパソコンソフトの開発と普及に携わっている横井茂樹さんにご寄稿いただきました。

This column “NUAL People in Action” features our alumni playing active roles in various fields. In this sixth issue, we have articles contributed by Mr. Morita Minoru, who has been working in Kyoto National Museum as head of curatorial division, and by Professor Yokoi Shigeki, who has studied in computer graphics and virtual reality in Nagoya University, article about e-learning software for elder people.

森田 稔さん

1954年、岐阜県生まれ。1980年、名古屋大学大学院文学研究科博士課程前期修了後、神戸市立博物館学芸員として勤務。文化庁美術学芸課主任文化財調査官を経て、現在、独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館学芸課長。専門は考古学・文化財学。主な著書に、『私たちの文化財を救え!!』（クバプロ、2007年）、『考古資料大観 6 弥生・古墳 青銅・ガラス製品』（小学館、2003年）。

博物館と地震と

「活躍する…」に自分があっているとは思わないが、今名古屋大学博物館が耐震工事中であると依頼者である全学同窓会広報委員会からお聞きし、お引き受けすることとした。なぜなら私の大学院修了後の人生には「地震」が深く関わり、現在もなお「地震」と向き合う仕事が必要な割合を占めているからである。

岐阜市出身の私は、大学入学時から専攻別に振り分けられる広島大学の文学部に進学した。しかし窯業史の研究を目指したため、広島大学の考古学研究室で主任教授だった故松崎寿和先生と名古屋大学考古学研究室の主任教授の故澄田正一先生が旧制中学の同級生だったこともあり、大学3年から名古屋大学の考古学研究室に出入して、発掘調査も参加していた。学部・大学院時代を通して樋崎彰一先生のご指導の下、窯業史研究を続けた。大学院修了後は神戸市教育委員会文化課学芸員、神戸市立博物館学芸員を務めていた。このまま神戸市の学芸職として定年まで勤めるものと思っていた。

その転機になったのが、1995（平成7）年1月17日午前5時46分に発生した「阪神・淡路大震災」である。前日から神戸市立博物館で開催を予定していたNHKとの共催の巡回展「秦の始皇帝とその時代」展の作品

を引き取るため名古屋に出張中であつたが、地震で宿泊中のホテルが大きく揺れ、目を覚ました。神戸で地震に遭遇したわけではなかった。午前中は情報があまりなく、文化財の点検作業を行っていたが、神戸の惨状が徐々に入り、昼には神戸に戻ることにした。しかし博物館に到着したのは午後11時過ぎで、変わり果てた神戸の町に呆然とした。博物館内では文化財の被害は少なく見えたが、展示ケースが3台倒れ、巡回展の中止と閉館を決めることになった。

神戸市立博物館は1935（昭和10）年に建てられた旧館部分に1982（昭和57）年の開館時に合わせて建築された新館が接続されているが、地震によって不同沈下を起こした。また展示室においては文化財が落下、転倒して若干の被害が発生した。収蔵庫においては伝統的な木製の棚に桐箱で収納する方法が有効で、被害は最小限度に抑えることができた。こうした館内における文化財の被害を、避難所に派遣されている間の休みを利用して記録して、被害の原因を特定する作業を続けた。1995（平成7）年の夏からは国から交付された社会教育施設復旧補助事業を開始して、地震発生からちょうど1年たった1996（平成8）年1月17日に博物館を再開させた。

博物館施設にとって甚大な地震被害を被ったのは、関東大震災時の帝室博物館（現在の東京国立博物館）



京都国立博物館における免震台使用例（㈱金剛提供）

以来で、今後発生が想定されている首都圏の直下型地震や東海地震への懸念もあり、各地で対応策を模索している段階であったため、博物館の世界では大きな注目を浴びることとなった。そのため各地の博物館の団体や学会に招聘され、被害の実態や考えられる対策法を話す機会が多かった。実は話す内容は単純であり、展示中では倒れない、落ちない工夫、収蔵庫内では伝統的な木製棚と桐箱、という対策が主体である。特に収蔵庫内では木製棚と桐箱が適度な摩擦力のおかげでほとんど動いていなかった。地震列島の日本において文化財がこのように多く残されてきた理由が再認識されることとなった。

こうした活動を博物館における学芸員としての仕事以外にこなしていたが、1996（平成8）年12月から縁あって文化庁にお世話になることとなった。ところが文化庁で最初に担当した仕事が、文化財の地震対策の手引作りであった。この手引の作成はすでに最終段階まで至っていたが、阪神・淡路大震災での知見をより詳しく盛り込むことができ、『文化財（美術工芸品等）の防災に関する手引』として全国に配布した。この手引においては、収蔵・保管の場面と公開・展示の場面における地震対策を中心にまとめたのであったが、免震台や建物免震などの最新のツールについては言及しなかった。それはこの段階では実績やデータがまだ不十分であったばかりではなく、メーカーを特定してしまう恐れがあったためであった。

1998（平成10）年秋から九州各県の100年来の夢であった「九州国立博物館」の設置準備を担当することになった。建物の設計に関わることで常設展示の計画策定が主な業務である。阪神・淡路大震災以降、日本列島の地震に関する情報も共有化されるなか、北部九州は列島の中でもっとも地震発生の確率の低い地域であることは承知していた。しかし阪神・淡路大震災では阪神地域に無事で問題のない博物館施設がなく、文化財の緊急避難ができる館がなかった。九州各県でも既存の博物館施設でも条件を満たすところは少なく、そのため九州国立博物館には「防災拠点」として位置づけられるハードが必要であった。幸い設計者は過去に建物免震の実績もあり、導入をすることができた。ところが開館直前に福岡県西方沖地震が発生。免震装置が9mm程度動いただけで文化財への影響は皆無であった。

職務以外にも地震との関わりがある。京都国立博物館に赴任した2005（平成17）年から文化財保存修復学会の災害対策担当の運営委員になった。この学会は阪神・淡路大震災後文化財レスキューが組織され、指定・未指定の差なく、救援の手を差し伸べてきた団体の中核を担った学会で、以降常設の特別委員会として災害対策調査部会を設置している唯一の学会である。その年に発生したのが新潟県中越地震である。文化庁から学会に対して未指定文化財の取り扱いについて協力要請がなされ、学会から現地調査に赴くことになった。この地震では徐々に導入されていた免震台の有効性について、問題提起される結果となった。免震台に載せた土器が転倒し、壊れた。免震台は阪神・淡路大震災規模の震動を減衰させるとはいえ、震度5程度はゆれる。つまり普段博物館では土器の中に重しを入れるとか、テグスを取れば問題ない震動とはいえ、こうした対策と併用する必要があるにも関わらず、ただ「載せただけ」。これでは倒れるわけである（写真）。

このように地震のたびに学びながらではあるが、できる限りの対策を考えて伝え、多くの文化財を次代に継承していく努力を続ける毎日である。今も石川県能登沖地震、新潟県中越沖地震の問題も抱えながら…



横井茂樹さん

昭和52年名古屋大学大学院工学研究科博士課程満了

現在、名古屋大学大学院情報科学研究科教授

大学院生時代から、情報工学系の研究、とくに画像関係の研究を行ってきた。研究テーマは、画像処理・認識技術の研究、コンピュータグラフィックス・バーチャルリアリティの研究を工学研究科時代に行ってきたが、もともと文学・社会学・経済学といった文系分野に興味をもっていたこともあって名古屋大学に情報文化学部が創設されるのを機に文理融合系の研究を始め、情報技術と社会に関わる研究を行っている。

現在の主な研究は、地域社会とIT、シニア・女性のIT活用支援、e-ラーニング、デジタルミュージアムなどである。

シニア向けパソコンソフト「e-なもくん」の開発と講習の実施

1. はじめに

世界で最も高齢化が進行しつつある日本において、今後シニア世代がいかに元気で社会参加・社会貢献を継続してもらえるかは大変重要な課題になっている。私の研究室では、シニア世代のIT活用を支援・促進することがこれら世代の活性化とともに地域活性化にも大きな意味を持つてくると考え、シニア世代のIT学習と活用を支援するためのソフトウェアの開発の研究を行っている。

2. シニア向けパソコンソフト「e-なもくん」

シニア世代の初心者がパソコンを覚えるときに、キーボードの操作を覚えることが大きな壁になっているため、本プロジェクトでは、キーボードを使わないで文字を入れられる機能を開発した。また、ソフトウェアの構造を単純化してわかりやすいものにするとともに、画面デザインにも工夫を凝らし、見やすい字、わかりやすく簡単な操作をとり入れ、極力機能を少なくした覚えやすいソフトを目指した。

このソフトウェアの開発は、名古屋市長の提案もあって開始され、平成16年度にソフトウェア開発委員会を設置しソフトと教材を開発した。委員会メンバーは以下の通りである。

名古屋市 市民経済局・総務局・教育委員会、名古屋都市産業振興公社、名古屋大学・中京大学・豊橋技術科学大学・金城学院大学、(NPO) ITエ

コサイクル推進機構

開発した、「e-なもくん」は初めてパソコンを使う人でも簡単に電子メールとインターネットホームページ閲覧が可能になるための以下の機能を持つソフトである。

- (1) 文字入力ソフト：キーボードを操作しなくてもマウス操作のみで直接文字を選びながら入力できる。
- (2) インターネット閲覧ソフト：通常のインターネットホームページを閲覧するソフトは文字が小さくみにくい問題があるとともに、機能が多すぎて操作を覚えにくいといった問題があるため、大きな文字で簡単な構造にしてインターネットを閲覧できるソフトを開発しました。直接単語を入れて検索する機能も用意しました。
- (3) 電子メールソフト：現在の電子メールソフトは用語や使い方が分かりにくいので、なるべく実際の手紙に近い感覚で、文章や宛先を入れて送ったり、受け取ったメールを簡単に見られるようにしたソフトを開発しました。説明用の文字もなるべく実際の手紙に近い言葉を使って理解しやすくしてある。

3. e-なもくん講習会

平成17年度に情報ボランティアの募集を行い、各区で約300名の応募者に対し、e-なもソフトの講師の講習会を実施しました。平成17年度後半から、ここで学習してもらった講師により名古屋市全区の生涯学習センターで実際にパソコン教育を行ってきた。

これまで2年半ぐらいの講習会を行っており、総計約2500名の受講者に講習を行った。受講者は50代以上がほとんどで、中には80歳以上の受講者もあり、しっかり

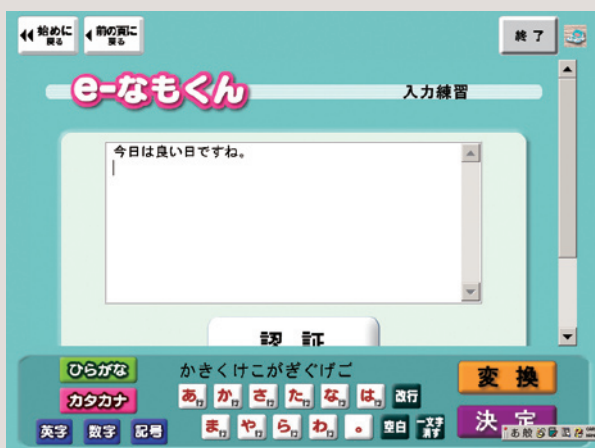
操作を学習されていた。なお、受講者へのアンケート調査結果では、約430名中、360名ぐらいがよくわかったか、あるいは大体わかったと答えており、開発の目的を達成したと考えている。

4. IT 活用支援サイト [e-市民ひろば]

このソフトの教育を実施していく中で、シニアの人々が、パソコンやインターネットを、どのように利用すれば、個人生活、コミュニティ活動、地域貢献などへの活用が可能かを学ぶサイトの構築が望まれていることがわかり、現在、地域市民のための IT 活用支援サイト「e-市民ひろば」の開発を進めている。このサイトは本年度中に市民へ公開する予定である。



講習会の様子（各区で1回10名参加）



e-なもくん文字入力



e-なもくん電子メールソフト

同窓会支援事業 NUAL Support Project

全学同窓会では、全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動（学生支援、就職支援事業、本部・部局による行事・寄附講義等）への支援を目的として、平成16（2004）年度より、公募型の大学支援事業を開始しました。この事業は年2回募集を行い、選考にあたっては選考委員会を組織し、厳正に行っております。平成18年度後期採択事業4件、平成19年度前期採択事業1件について、担当者より報告いただきました。

NUAL commenced an open invitation type support project from 2004 for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association. This project extends invitation twice a year and the Selection Committee is organized to implement a strict selection of activities. The following are summaries of the five activities selected in 2007.

名大祭

Nagoya University Festival

申請代表者：二宮彰久
(名大祭本部実行委員会委員長 工学部3年)

名大祭は1年の暦の中で東山キャンパスにもっとも人が集まる伝統ある祭典です。毎年多くの方にご来場いただき、東海地区でも最大級の大学祭といえます。今回の第48回名大祭開催にあたり、全学同窓会から運営費の一部を支援していただきました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

さて、名大祭は1960年代に学生自治の祭典として生まれ、今回で48回目を迎えました。そして、その歴史の中でも48年間変わらず、名大祭は「名大生のもつエネルギーが集約される場」でありました。今回の名大祭でも多くの名大生が、模擬店・フリーマーケットへの出店や、日頃の課外活動の発表、又は一來場者として参加しました。その結果、東山キャンパスでは日頃感じることのない熱気に包まれました。

もちろん名大祭ではエンターテインメント性の強い企画以外にも、学内外の講師による講演会なども行われました。幅広い年齢層の方が、普段触れることのできない名古屋大学の研究室によって、知的好奇心が存分にくすぐられたことでしょう。

このように名大祭では子供から年配の方まで、もちろん同窓生の方にも楽しんでいただける催しが多く行われています。今回の名大祭に参加されなかった同窓生の方も次回の名大祭を機に母校を訪れてみてはいかがでしょうか？



名古屋大学下宿用品リユース市

Reuse Market

申請代表者：浅野浩司
(下宿用品リユース市実行委員会 経済学部3年)

名古屋大学下宿用品リユース市実行委員会（以下、リユース市実行委員会）では、毎年主に名古屋大学の卒業生の皆様から、冷蔵庫や洗濯機、棚や机などの下宿用品を無償で提供していただき、それらを主に名古屋大学の新入生に提供するという「名古屋大学下宿用品リユース市」（以下、リユース市）を開催しています。

2007年4月1日に、全学同窓会の助成を受けた「第12回リユース市」が開催され、約430品もの下宿用品が新しく使ってくれる人を得ることが出来ました。名古屋大学の協力により、第一体育館を開催場所として使用させていただき、天候にも恵まれ、大成功のうちに第12回リユース市を終えることが出来ました。

リユース市実行委員会は、「環境負荷軽減を下宿用品のリユースにより実現しよう」という目的の下に集まった、環境に対して意識を持つ名古屋大学の学生が中心となって運営しています。第12回リユース市は、名古屋大学経済学部の浅野浩司を代表とし、コアスタッフ10名で運営されました。また、第12回リユース市では、「もったいないのおてつだい」というスローガンを掲げ、メンバーだけでなくリユース市に関わった人に「環境に対してなんらかのアクションをとる」ということを意識してもらうように活動をしました。

今後は、リユース市の活動を通じて、大学生の環境に対する意識をより高め、社会に貢献していこうと考えています。



名古屋開府400年 “どすこい!! 名古屋城 RAVE 2008”

DOSU KOI!! Fusion of Nagoya Castle and Rave in 2008

申請代表者：新美将平
(相撲部主将 文学部4年)

「はっけよい！」七夕の夜、ライトアップされた天守閣の下、幻想的な雰囲気の中を威勢の良い掛け声が何度も響き渡る。

本イベントは、衰退しつつある相撲文化を復興したいという想いから、若者を対象としたアマチュア相撲大会をメインコンテンツとして行われた夏祭りです。しかし、単に相撲大会を行うだけでは相撲に興味のない若者は見向きもしてくれません。そこで、伝統的な文化である相撲と若者特有の感性が織りなすクラブイベントとを融合させることで、多くの若者に名古屋城、そして相撲大会に足を運ばせるきっかけ作りをするとともに、新たな文化を創造することを目指して企画されました。相撲と音楽、名古屋城とRAVEという、とすればミスマッチとも思われそうな組み合わせですが、これが不思議と融合し、独特の雰囲気を作り出します。これはまさに伝統と革新の融合とも呼べるものであり、そのアイデアは尾張藩七代藩主である徳川宗春公が名古屋城を民衆に開放し三日三晩踊り狂わせたという伝説から得ています。

当日の来場者は1000人を越え、大相撲名古屋場所の直前ということもあって名大相撲部OBの舩名大さんをはじめ、力士の方々にも駆けつけていただき、観客の皆さんも手に汗を握って相撲に熱狂していました。また、会場に足を運んでくださった松原武久名古屋市長からもご好評をいただき、会場内では名古屋開府400年記念に行われるNC400プロジェクトの一環である名古屋城本丸御殿復元へ向けての募金活動も行われました。

最後になりましたが、本イベントの開催にあたりまして名古屋大学全学同窓会より多大なご理解とご協力を賜りましたこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。今後とも本イベントへのご理解とご支援、ならびに相撲部の競技活動へのご声援の程、宜しく願い申し上げます。



名古屋大学 流鏑馬供覧

Horseback Archery Show

坂下由衣
(和式馬術部主将 文学部2年)

平成19年11月4日、名古屋大学和式馬術部が「名古屋大学 流鏑馬供覧」を開催しました。開催場所は、名古屋大学教育学部附属中・高等学校グラウンドです。今回の開催主旨は、普段馬という生き物に接する機会のない方々に、日本にも昔から馬がいて、馬とともに育ってきた文化があるのだという事実に気づき、興味を持ってもらうということでした。日本在来馬（日本に昔からいる馬）は、その頭数が減り、絶滅の危機にもあるといえます。去年に続いて二回目の開催ということでいったん原点に戻り、学んでもらうというよりは、その日本在来馬を実際に間近で見ってもらうことで、まず日本古来の馬の存在に気づいてもらうことに焦点をあてました。演目は、扇で舞いながら直線を走り抜ける馬場祓、部員による流鏑馬披露、日本の馬や馬の行事に関する説明、『平家物語』の那須与一を模して約60m、離れた扇の的を射る古典演習などです。当日は約300人の方々にお越しいただき、アンケート結果からも大変楽しんでいただけたようすが伝わりました。十分に日本の馬というものを印象付けられたのではないかと思います。特に行事の最後に設けた体験乗馬、曳き馬での体験流鏑馬は好評でした。

私たち和式馬術部は、日本の馬術や馬の文化を継承するための一助となり、その活動が日本在来馬の保存と活用へとつながることを目標に平成17年に設立されました。とくに中部地区を中心として日本在来馬を使った行事への参加やお手伝いを活動主旨としています。現在日本全国で唯一の部活と思われ、名古屋大学が体育会正加盟として認めています。

現代日本では、馬といえば競馬主体で考えられやすく、一般の人々と馬との距離は大きく開くばかりです。名古屋大学での流鏑馬供覧を通して、その距離を少しでも縮めるための工夫を毎年行っていけたらと思います。



名古屋大学文学部創立60周年記念学術講演会・学術シンポジウム及び記念式典

School of Letters 60th Anniversary Lecture, Symposium, and Ceremony

申請代表者：町田 健
(文学研究科長)

名古屋大学文学部は、11月3日、創立60周年を記念して学術講演会及び学術シンポジウムを同大工学研究科 IB 電子情報館 IB 大講義室で開催しました。

午前の部では、東京大学人文社会系研究科の高山 博教授を講師に招き、「人文学の未来」と題する学術講演会を行いました。午後の部では、「『危機』を超える人文学」をテーマに学術シンポジウムを開催しました。4名のパネリスト(坪井秀人名古屋大学文学研究科教授(日本近代文学)、吉武純夫同大文学研究科准教授(西洋古典学)、和崎春日同大文学研究科教授(文化人類学)及び余語真夫同志社大学文学部教授(心理学))が、それぞれの専門分野から、人間と社会の「危機」を克服するための方途についての報告を行いました。学術シンポジウム終了後、会場を名古屋国際ホテルに移し、文学部創立60周年記念式典を挙行了ました。記念式典では、町田文学研究科長、平野総長の挨拶の後、来賓として、文部科学省高等教育局の小島国立大学法人支援課課長補佐から、清水文部科学省高等教育

局長の祝辞が代読され、引き続き、天野大阪大学文学研究科長及び阿部南山大学人文学部長から祝辞が述べられました。教養教育院院長の若尾教授から、今後の文学部の展望について報告がありました。

記念式典終了後、同大の学生オーケストラによる四重奏が奏でられる中、祝賀会が、杉山理事(元文学研究科長)の挨拶の後、田中文学部同窓会代表幹事から心温まる祝辞があり、高橋理事・事務局長の乾杯の発声により開催された。その後、丹羽同窓会代表幹事から学生生活等の回想が語られるとともに、森 正夫名誉教授(元文学部長、元副総長)のご挨拶があり、祝賀会は盛況のうちに閉会しました。



文学研究科の更なる発展を期待したいと挨拶する平野総長

名古屋大学基金へのご協力のお願ひ

名古屋大学では、創立70周年記念事業の一環として「名古屋大学基金」を創設され、募金活動に取り組んでおられます。全学同窓会は、この活動を全面的に支援し、豊田章一郎名古屋大学全学同窓会会長が「名古屋大学基金支援会」の会長を務めております。これまでのご寄附に感謝申し上げますとともに、さらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ホームページ <http://www.nagoya-u.ac.jp/kikin/>



女子中高生理系進路選択支援事業による公開科学講座及び懇談会を開催



懇談会の様子

「科学しようよ！～女子中高生のための名古屋大学理系女子教員による公開科学講座～」が、2月10日（土）、理学部1号館等において開催されました。本講座は、平成18年度文部科学省「女子中高生理系進路選択支援事業」に採択された「めざせ女性科学者～女子中高生理系進路選択支援事業」の一環として、男女共同参画室の主催により行われたものです。

公開科学講座は、3つの会場に分かれて行われ、理学部1号館では伊藤由佳理多元数理科学研究科講師が「数学の旅に出かけよう！」と題し、形として美しいと感じられる「対称性」について、数学の世界や数学者の美的感覚などを紹介しながら講義や演習をしました。工学部1号館では、山本智代工学研究科講師が「化学は暗記じゃない！～化学で新しいモノをつくる～」と題し、様々な高分子材料に触れながら、その仕組みを紹介しました。農学部B館では、東村博子生命農学研究科助教授が「ホルモンが行動を変える?!」と題し、実際に動物と触れあいながら講義と実習を行いました。参加した東海3県下の女子中高生とその保護者や中学・高校教諭は、活気あふれる講義や実習に熱心に聞き入り、取り組みました。

また、同日、野依記念学術交流館において、「女子中高生を持つ保護者と中高教諭のみなさんと名古屋大学理系教員との懇談会」が開催されました。

大学教員との懇談会・個別相談会では、大学院理学研究科、大学院工学研究科、大学院生命農学研究科、大学院多元数理科学研究科長及び副研究科長や教員が、中高生の保護者及び教諭からの志望進路等の相談に応じました。

引き続き、合同懇談会が行われ、教諭及び保護者の他、公開科学講座を終えた女子生徒や、本学研究者、学部学生、大学院学生など総勢約100名の参加者が、和やかな雰囲気の中で懇談をしました。参加した女子中高生からは、「大学のことがよく分かったので参加して良かった」、「名大を目指して頑張ります」との声も聞かれ、成功裏に終了しました。

(名大トピックス No.166より)

「医学部附属病院門及び外塀」が登録有形文化財として答申される



病棟の前面に位置する「旧愛知病院正門及び外塀」
（門柱のデザインが、病棟基壇の柱にも引用
されていることがわかります。1999（平成
11）年に復元・保存されました。）

6月15日（金）に開催された文化審議会の答申で、「名古屋大学医学部附属病院門及び外塀」が文化財建造物として登録されることになりました。国の文化財への登録は、全国の国公立大学では既にいくつかの事例がありますが、愛知県内の国公立大学では初めてのことです。

登録対象の「門及び外塀」は、1914（大正3）年に建設、1930（昭和5）年に改修された旧県立医学専門学校、旧県立愛知病院の正門や外塀など3件からなります。門の角柱には花崗岩が用いられ、デザインはローマ建築における柱の形式のひとつであるトスカナ式オーダーを基本とした古典的なものです。外塀は釉薬が施された、表面に櫛引きまたは引掻き溝を刻んで焼成したタイルであるスクラッチタイルで仕上げられ、隅角部は立体的でシンプルな幾何学模様のテラコッタ（素焼きの粘土製品）で装飾されて

います。いずれについても、昭和初期の建築材料の質の高さやデザイン傾向を窺うことができます。

建造物の文化財登録制度は、平成8年の文化財保護法改正に伴い導入されたもので、登録することにより、保存・活用のための費用に一部国の補助が受けられる等の優遇措置があります。登録基準として、建設後50年を経過し、「国土の歴史的景観に寄与しているもの」「造形の規範となっているもの」「再現することが容易でないもの」のいずれかに該当することが条件として定められており、今回の登録は「造形の規範となっているもの」として認められたことによるものです。

なお、「名古屋大学医学部附属病院門及び外塀」については、大学文書資料室編「名古屋大学紀要」（第10号、2002年刊）に詳細な記載があるほか、名大トピックス No.151「ちょっと名大史」でもすでに紹介されています。数年後には、著名な建築家が手掛けた豊田講堂や古川記念館も建設後50年を迎えるため、文化財登録をめぐる今後の動向が注目されます。（名大トピックス No.171より）

■ ハノイ法科大学で日本法教育研究センター開所式を挙行



握手するタム学長（左）と松浦研究科長（右）

名古屋大学日本法教育研究センター開所式が、9月7日（金）、ベトナムのハノイ法科大学において行われました。

文部科学省の特別教育研究経費の支援を受け、同センターを設立するのは、2005年のウズベキスタン共和国タシケント国立法科大学、2006年のモンゴル国立大学に続き、3番目となります。同センターでは、金村久美法学研究科特任講師と現地採用の日本語講師が専任講師として日本語教育に当たるとともに、日本法の教育、卒業生へのフォローアップや科学研究費等のベトナム研究の拠点としての機能も期待されています。なお、来年度は4番目のセンターを、カンボジアのプノンペン法経学部の開所する予定で準備が進められています。

当日は、日本から、梅沢 敦文部科学省国際協力政策室長、清水大督同室員をはじめ、平野総長、佐分理事、松浦法学研究科長、鮎京法政国際教育協力研究センター長ら23名が、また、現地からは、服部則夫在ベトナム日本国大使、中川寛章国際協力機構ベトナム事務所長、平田 敬日本商工会事務局長、ホアン テリエン ベトナム司法省副大臣、レミン タム ハノイ法科大学長ら100名を超える関係者が出席しました。また、平田ベトナム日本商工会事務局長をはじめ、トヨタモーターベトナム、株式会社デンソー、日本貿易振興機構（JETRO）、伊藤忠商事株式会社、豊田合成株式会社、三菱東京 UFJ 銀行等日本企業からの出席もありました。

式典では、総長及びタム学長によるあいさつに続いて、リエン司法省副大臣、服部大使らの祝辞があり、同センターの発展と共に今後の人材育成に大きな期待が寄せられました。

引き続き、同センターの教室に移動して、アオザイ姿の同大の学生が持つテープに、総長及びタム学長がハサミを入れました。その後、テレビ会議システムを利用して同センターと本学、モンゴルを結びプレゼンテーションを行いました。

式典終了後は、ハノイ市内のデーウーホテルに会場を移し、全学同窓会ベトナム支部設立総会の参加者と合流し、同センター開所祝賀パーティを行いました。総長及びタム学長のあいさつ、梅沢室長、ダオ チ ウック本学名誉博士（ベトナム国家と法研究所長）らの祝辞の後、小樋山 覚ベトナム・日本人材協力センター長の音頭で乾杯を行いました。日本舞踊や琴の演奏、ベトナム民族音楽演奏等が披露される中、終始和やかにセンターの開所を祝いました。（名大トピックス No.173より）

■ FOREST

「FOREST（フォレスト）」は、東山キャンパスで長い間親しまれてきた第一理科系食堂（中華）と第二理科系食堂を改築・改修してできた総合的な機能を持つ福利厚生施設です。旧第一・第二理科系食堂は、名古屋大学生協の中で最も古い食堂であり（昭和41年・47年竣工）、建物自体と設備配管等の老朽化が激しく、また、ユーザーから現状の改善を要望する声も多かったことから、今回、「名古屋大学の理系福利厚生施設としてふさわしい施設づくり」を目指し、改築・改修することとなりました。

これまで四ッ谷通りから東側のキャンパスには、専門書を扱った書籍店がありませんでした。そこで、長年の要望に応え、旧第一理科系食堂を書籍店とカフェの機能を持つ「Books & Cafe Fronte」（平成18年5月オープン）として、東側の旧第二理科系食堂を「Dining Forest」（平成18年10月オープン）として再整備しました。名称は学内公募により、今井名古屋大学消費生活協同組合専務理事の発案である「FOREST（For Eat & Study Talk）」に決まりました。

これら二つの建物を改築・改修するに当たり、念頭に置かれたことは、「別々だった建物を有機的に結びつける」ということでした。二つの建物の間の軸線上にメインアプローチである外部階段を設けて主動線とし、建物間が行き来できるようにしています。これにより、「Books & Cafe Fronte」側に取り付けたエレベーターを用いることで、完全なバリアフリー化を実現しています。また、この外部階段を視線と風が南北に抜けるような形で設計することで、閉塞感を軽減し、北側に見える雑木林と一体でアプローチを演出しています。また、「FOREST」の名前に相応しいよう計画地付近の竹や雑木の手入れを行い、適切な木陰造りによる「心地よい外部空間の提供」と「建物内部への採光性の向上」を図りました。それぞれの建物の特徴は次の通りです。

● Books & Cafe Fronte



構造：鉄骨造 建築面積：350㎡
階数：地上2階建て 延べ面積：572㎡

建物南側正面のデザインは、縦ラインを強調したガラスカーテンウォールとしています。ガラス面に貼られた透明度の異なる3種類のフィルムは、周辺に対しての開放性や建物内部と外部の繋がり多様性を醸し出すとともに、日照をコントロールし空調負荷を軽減する役割も担い、魅力ある書籍店を演出しています。また、このガラスカーテンウォールの室内側足元には給気口が設けられ、中間期には外気を取り込むことで空調負荷を軽減します。

建物内部は、南側約4m部分を吹き抜けとすることで、空間に広がりを与えると同時に、1階からの2階フロアー（書店やカフェ（60席））の視認性を良くしています。また、書籍店として快適な空間を演出するために、既存の第一理科系食堂の1階床レベルを30cm程度下げて十分な天井高さを確保しました。

なお、この建物の建設資金（エレベーターと外構を除く）は、名古屋大学消費生活協同組合の寄贈によるものです。

● Dining Forest



構造：RC造 建築面積：565㎡
階数：地上2階建て 延べ面積：662㎡

旧第二理科系食堂は、既設建物の構造はそのままに内部機能の大幅な向上を図りました。

厨房を含め、内外装の仕上げの全面撤去・改修をし、1階にはこれまでなかった多目的トイレを設けるとともに男女トイレを広くしています。2階の食堂ホールでは、内部階段を外部に移設することで床を増床して座席数を220席とし、隣のカフェをあわせると合計280席の、従来の第一・第二理科系食堂と同数の座席数を確保しています。内装は白を基調とし、清潔感のある空間をイメージしました。また、間接照明を採用し、柔らかい光が溢れる空間を演出しています。外観デザインでは、南面の開口部を大きく拡げ、積極的に自然光を取り入れつつも、夏期の直達日射を遮る位置に庇を設け、さらにガラスには遮熱フィルムを貼ることで空調負荷の軽減を行っています。（名大トピックス No.165より）

●インターネット会員登録について NUAL member registration

名古屋大学全学同窓会名簿への登録についてご案内します。

You can renew your registered data through the NUAL web page.

○新卒業生・修了生

会則に従い、自動的に名古屋大学全学同窓会の会員としてお名前、生年月日、卒業年が名簿に登録されます。同窓会ホームページには、本人だけがアクセスできる現住所、電話、E-mail、勤務先等々の欄がありますので、ご自身での記載変更をお願いいたします。

○未登録同窓生・元職員

在学・在職年度や部局等によっては現時点で、名簿に登録されていない場合があります。ホームページを通して新規登録をお願いいたします。

※名簿は、社会貢献人材バンクとして全学同窓会および名古屋大学の活動に利用しますが、個人情報本人の承諾なしに公表されることはありません。最新の会員情報が得られますよう、皆様のご協力をお願いいたします。

ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp>

●同窓会ラウンジのご利用について

名古屋大学内広報プラザ2階に同窓会ラウンジがあります。ご友人との待ち合わせ場所、大学訪問の拠点などお気軽にご利用ください。（利用時間：平日の午前9時から午後5時まで）

「名古屋大学カード」誕生!

年会費永年無料!

使えば使うほど、大学支援に繋がります。



名古屋大学全学同窓会は、大学支援を強化するため、三菱 UFJ ニコスと提携し「名古屋大学カード」を発行いたしました。「名古屋大学カード」はUFJ ゴールドカードと同等の機能*を持ち、年会費は永年無料です。

「名古屋大学カード」を利用されますと、その金額の一部が手数料として全学同窓会に還元されます。全学同窓会では、その還元金を大学支援（学生活動支援、就職活動支援、行事支援等）の事業に充当し、研究・教育活動に役立ててもらおうとします。ごく日常のショッピングやカードの利用が、大学支援に繋がります。名古屋大学の象徴である豊田講堂をデザインした「名古屋大学カード」をご利用いただき、母校の支援にご協力をお願いします。

* UFJ ゴールドカードとは一部異なる特典がございます。詳細は入会申込書をご確認ください。

全学同窓会ホームページ (<http://www.nual.nagoya-u.ac.jp>) から申し込むことができます。

事務局からのお知らせ From the NUAL Office

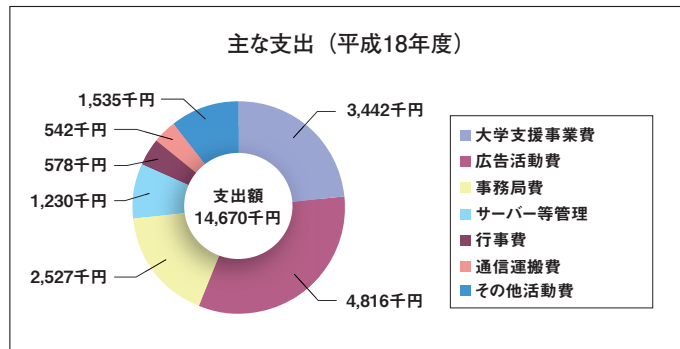
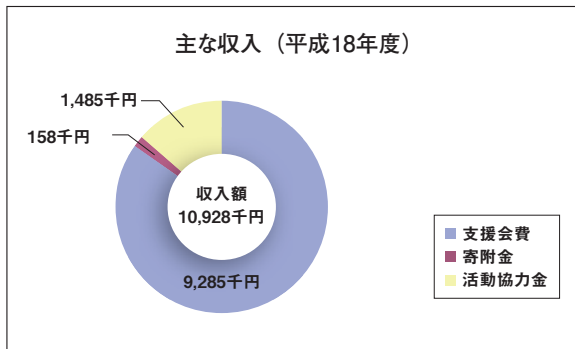
●支援会費のお願い Call for contributions

名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられております。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

- 支援会費 Supporting Fee 支援会員 Supporting member : 一口 5,000円
支援法人会員 Supporting institution : 一口 50,000円

- 支払い方法 郵便振替 Post Office Account 口座番号 : 00860-8-113043
自動引落 利用ご希望の方に、預金口座振替依頼書をお送りします。関係書類をご入用の場合は、同窓会事務局にご連絡ください。

支援会費、活動協力金等は、全学同窓会の設立理念に合致する活動に使わせていただきました。



お詫び

平成18年度支援会員・寄附者名簿に以下の誤りがございました。ここに深くお詫びいたしますとともに、下記のとおり訂正いたします。

お名前	誤	正
情報文化学部 佐藤 拓矢様	佐藤 拓也	佐藤 拓矢

編集後記

本号は「豊田講堂」を特集しました。改修なった豊田講堂の竣工記念ホームカミングデイにいらっしやって、このニューズレターを見ていただいている会員の方も多いいことと思います。少しでも、懐かしい写真などもお楽しみください。その他、海外支部設立の記事などを掲載いたしました。伝統を大事にしつつ、新たな発展をしていきたいと考えます。これからも同窓会員の皆様の情報をお待ちしております。

(全学同窓会広報委員会)

NUAL Newsletter No.9 平成 20 (2008) 年 2 月発行

Nagoya University Alumni Association

NUAL 名古屋大学全学同窓会

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 TEL/FAX 052-783-1920

E-mail nual-jimu@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集 : 名古屋大学全学同窓会広報委員会